

ビンゴゲームのカードで「倍数めがね」を作ろう！

和歌山 小田富生

数教協では、「倍数めがね」という有名な教具があります。0～99の数字を並べたカード（台紙）の上に、2の倍数の数字のところに窓をあけたカード（2の倍数めがね）を重ねると2の倍数の数字だけが窓から見えます。これに3の倍数めがねを重ねると、2と3の公倍数が窓から見えるという仕組みです。あけた窓の規則性や公倍数のしくみを発見できる楽しい教具です。

これを作るには、方眼の工作用紙を使えば便利なのですが、カッターナイフで一つずつ窓をあけるのにすごく時間がかかります。何かいい方法がないかなあと思いつつも教師生活が終わってしまいましたが、いつも頭の片隅には課題意識を持っていました。最近になってビンゴゲームのカードが利用できるのではと思いつきました。このカードを使うと窓をあけるのがずいぶん簡単です。倍数めがねの台紙の数字は10列10行（でなくてもいいのですが）ですから、10列10行のカードがあれば最高ですが、残念ながらカードは5列5行です。それでも、このカードを4枚貼り合わせれば10列10行になりますし、2枚貼り合わせて、0～49の倍数めがねでも十分ではないかと思いました。作り方を紹介します。

材料・道具

*ビンゴゲームのカード

ここでは、ダイソーのカードを使って説明しています。60枚入りで110円です

*台紙…少し厚手の紙（A4）

*カードを貼り合わせるためののり付きシール…5mm幅

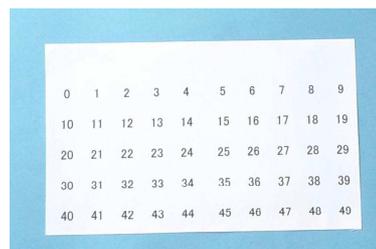
タック（ラベル）シールを5mm幅にカットして使います

作り方

①3pの台紙の型紙を少し厚手のA4紙に印刷する。

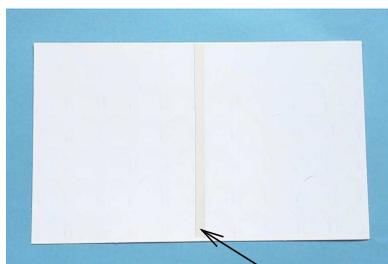
1枚で2人分とれるので、切り離す。

（4と5の間隔は少し広がっています）



0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46	47	48	49

②2枚のビンゴカードを並べて、表と裏から5mm幅ののり付きシールで貼り合わせる。



5mmののり付きシール

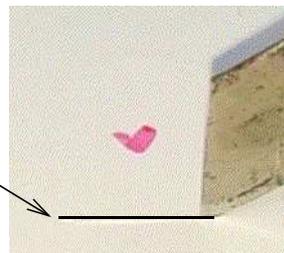
③あける窓にあらかじめ印をつけておく。

(4の倍数めがねの場合)

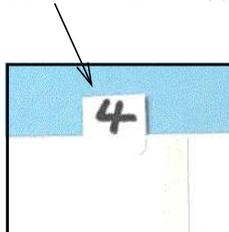


④窓をあける。

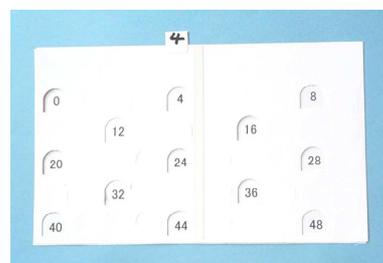
窓の底辺部分をカッターで切れば、簡単に窓をあけることができます。



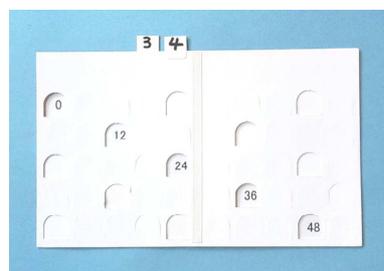
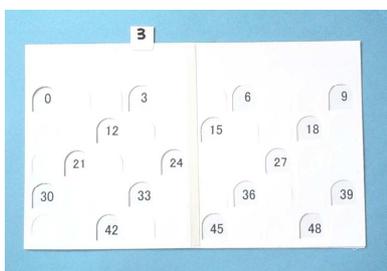
⑤名前シールを2つ折りにして、カードを挟んで貼り合わせて見出しをつける。



4の倍数めがねが完成



⑥4の倍数めがねと3の倍数めがねを重ねると、3と4の公倍数が窓から見える。



※台紙の数字と数字の間隔はダイソーのカードに合わせています。

他のカードを使う場合には、面倒ですが窓の間隔に応じて作り直してください。

(「台紙」をクリック→エクセルファイルを保存して加工してください)

〈終〉

「

」

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46	47	48	49

┌

┐

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46	47	48	49

└

┘